



車いすのまま作業できるプランターに花を植えるお年寄り（北淡町野島のあわじ荘で）

車いすのまま園芸

北淡の特養で教室 痴ほう防止効果に注目

車いすのまま作業できる園芸道具を使ったガーデンニング教室が二十五日、北淡町野島の特別養護老人ホーム「あわじ荘」（市野明所長）で、島内で初めて開かれた。植物の癒やし効果を利用する「園芸療法」は痴ほうを防ぐ効果が注目されており、福祉関係者らが関心を持って見守った。

車いす使用者にとって園芸はかがんでの作業が多いため敬遠されてきた。しかし園芸療法が脚光を浴び、車いすで作業ができる器具が次々と開発されている。同荘では入所者の生活に園芸を取り入れようとの意向で、建材メーカーなどの協力で、高さが七十一センチまで調節でき、車いすで近づきやすい形をした「高脚付き三角プランター」五台を導入した。

この日は、県立淡路景観園芸学校で園芸療法を担当する藤野守弘・主任景観園芸専門員が指導。下半身が不自由で車いす生活を送るお年寄り約二十人が、久しぶりに触れる土の感触を楽しみながらペチュニアを植え込み、同荘の女性74は「足を悪くして園芸から遠のいていましたが、ほぼ一年ぶりに楽しめました」と目を輝かせていた。

講習会には、福祉士ら約十五人も参加。同荘の葉田豊秋次長は「喜んでる姿が印象的。年五、六回は植える機会を作りたい」と話、

平成14年 6月26日(水)
読売新聞(朝)・夕
29頁 淡路版

「通行料引き下げを」

神戸淡路鳴門道 設立総会で 要請決定
利用促進会議

「淡路島・神戸淡路鳴門自動車道利用促進会議」の設立総会が二十五日、洲本市の洲本商工会議所で開かれた。島内各種団体代表らが出席、同自動車道の通行料引き下げを強く求めていくことを決めた。

明石海峡大橋を含む同自動車道が平成十年に全面開通したが、厳しい経済情勢で利用は伸び悩んでいる。また、平成十五年三月末までは特別料金（20%引き）が設けられているが、それでも料金が高いため、トラックなどが島内の一般道を走り、交通事故多発や環境悪化などの心配がある。特別料金期間が切れるまで一年足らずとなったため、同商議所や淡路地区商工会連絡協議会、淡路地区連合自治会など計十団体が発起人となり、会議を設立した。

総会には、約五十団体の代表が出席。同商議所の琴井谷史郎会頭が「橋と高速道路の高い料金が流通・観光産業の発展のネックになっている。通行料引き下げを求める声は高まっており、恒久的な大幅引き下げなどの実現に向けて運動を展開したい」とあいさつ。発起人会はすでに約八十団体に声をかけている。同会議は賛助金（一口三千円）も募っている。

平成14年 6月26日(水)
産経新聞(朝)・夕
26頁 淡路版